

ミサゴ便り

平成13年5月1日発行



皆さんお元気ですか。百花繚乱のいい季節になりました。まさにバードウォッチングにはもってこいの暖かい日が続いています。しかし花粉症の人には辛い季節かも知れませんネ。もうすでにツバメが飛来しています。早いものでついこの間

まで民家の軒下に巣を作り、雛を育てていた姿が思い出されます。

1年たつのは早いものですネ。皆さんはどんな春に気づいたでしょうか。シジュウカラのさえずり、ムクドリのパア、スズメの交尾、小鳥たちが子育てのシーズンに向かっているのは間違いありません。

また、冬鳥が北国に帰っていくのもまた春の証と言えるでしょう。春爛漫のいい季節に、野山を歩きながら自然を楽しむ、これこそ最高の贅沢といえるかもしれません。まさにバードウォッチングは自然観察には最高の嗜好かもしれません。身近な自然で季節の移り変わりを、野鳥を通して観察してみましよう。きっと何か新しい発見ができると思います。

※毎月1回の公民館主催によるバードウォッチングで会いましょう

野鳥観察記録 (弓削野鳥の会メンバー)

3月11日 尾道の海岸線にて水鳥観察 (カンムリカイツブリ、
イソシギ、ミサゴ、ウミウ、カモメ、ウミネコ、ハシブトカラス
トビ、ハシボソカラス、ジョウビタキ (♀♂)、セグロセキレイ)

3月12日、日比にてツバメ観察、早いものですネ(山田氏情報提供)



新 刊 紹 介

「日本の野鳥590」



元・日本野鳥の会山形県

支部長、真木広造氏によって、すべて

の写真が撮影された本書の特色は、豊富な海外取材と国内での絶滅種の掲載です。とても見やすく、初心者からベテランまで初めて出会う種の識別に役立つと思います。(平凡社刊 A5変型・656項3, 675円)

都会のカラスと田舎のカラス

窓から鳥を見ているうちに、あることに気がついた。緑多い林の連なる景色のところにはハシブトガラスが、田園地帯の広がるところにはハシボソガラスが見られる。(中略) 早速調査してみると、すると、ハシブトガラスの見られる環境とハシボソガラスの見られる環境とが見事に分かれたのである。ハシボソガラスは、主に郊外の

草地や水田や畑、明るい林などを含む開けた環境で見られる。広い河原や砂丘のある海岸でもハシボソガラスが多い。

一方、ハシブトガラスは、山地でも低地でも樹冠の連なる森林にすんでいる。(中略) このようにハシブトガラスとハシボソガラスはかなりはっきりとすみ分けている、だが、異なる環境が細切れに存在しているような場合には、両者が入り交じって住みついている。

(小学館文庫「カラス、どこが悪い!？」樋口広芳、森下英美子)

指 標 生 物 (生物の形状や分布様式を目安)

生物は気候や地形、大気汚染などの環境を敏感に感じ取って、住みやすい環境へと生息範囲を拡げていったり、環境に合わせて形を変えたりします。そのような生物の形状や分布様式を目安にして自然環境を推し測ることができ、そのときに基準となる生物を「指標生物」と呼びます。

生 物	環 境
サクラの開花	春の訪れ
アジサイの開花	梅雨
ツクツクボウシ	夏の終わり
アキアカネ	秋の訪れ
サザンカの開花	冬の訪れ

オオバコ	表土の堅さ（人がよく通る）
アカマツ	やせ土
ウメノキゴケ	空気のきれいさ
樹形の傾き	風の方角や強さ
根曲がり	積雪量



編集後記（事務局から）

このミサゴ便りもできるだけ発行できるときに出そうと思っています。

皆様のご意見要望等ありましたら

どしどしお寄せください。鳥の観察記録もメモ書きでもかまいませんので、事務局まで連絡か通知をお願いします。

また、前回周知いたしました「鳥のさえずりが聞こえる本」と「スキャントーカーリーダー」の注文について、希望がありましたら下記事務局まで申し出ください。

【弓削野鳥の会事務局連絡先】

下弓削 315 村上 尚 ☎ 77-3607

Fax 77-3607

Eメール taka1230@isis.ocn.ne.jp